

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2014 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

全性連・第44回全国性教育研究大会報告…………… 1	今月のブックガイド…………… 11
もっと知りたい男子の性③…………… 8	JASEインフォメーション…………… 12
性教育の歴史を尋ねる⑱…………… 10	

■全性連・第44回全国性教育研究大会報告

未来に向かって「生」と「性」を 大切に生きる児童生徒の育成

「岩手らしさの真心を込めた大会」を目指して

第44回全国性教育研究大会／平成26年度東北地区性教育研究大会／岩手県性教育研究会性教育セミナーが、8月7日(木曜日)～8日(金曜日)の2日間、岩手県盛岡市の「いわて県民情報交流センター アイーナ」で開催された。大会には、19都道府県から430名が参加した。

石川哲也全国性教育研究団体連絡協議会理事長が大会開催の挨拶で、性教育の現状を述べた後、大会実行委員長の藤川ひとみ岩手県性教育研究会会長(盛岡市立大慈寺小学校長)が、大会開催の挨拶を次のように述べた。

全国各地で、日々性教育の充実・発展のためにご尽力されている皆様方を、石川啄木が「美しい追憶の都」と、宮澤賢治が「モリーオ市」と呼んだ「杜と水の都 盛岡」にお迎えして、性教育の充実発展を願う一人としてこの上ない喜びでございます。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋



岩手県のキャラクター「そばっち」の会場案内と受付風景

沿岸沖を震源地とする巨大地震とそれに伴う大津波により、沿岸地域では多くの尊い命と財産が奪われました。教育の現場にいる私たちにとって、大震災津波は「子どもたち一人一人のかけがえのない命を守り、はぐくむこと」がいかに大切であるかを刻印しました。岩手の教育現場では、この大きな悲しみ、嘆きを、「新たな可能性」「未来への輝き」に変えていこうと、力強く「いわての復興教育」に取り組んでいます。

しかしながら、子どもたちを取り巻く性に関する諸問題は、近年その状況をますます深刻化・複雑化しているように思います。ましてや、住み慣れた家

や故郷を失った被災地においては、さらに過酷な現状を抱えています。子どもたちの発達段階を踏まえ、心身の発育・発達や健康、性感染症の予防などに関する知識を身に付けること、生命の尊重や自他の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築する態度などをはぐくむために、学校教育のみならず、医療、福祉、報道等々との幅広い連携が求められています。

今、岩手が行うべき性教育は、「夢や願いをもったかけがえのない子どもたち」が、未来の復興の担い手に育っていくことを抜きにしては考えられません。自分自身が仮設住宅に暮らしながらも、明るく元気に学校に通ったり、地域の方々に元気を届けようと伝統芸能の練習に汗を流したりしている子どもたちの姿は、性教育の原点である「尊い私とあなた」を目指す姿であり頼もしい希望の星です。厳しい状況の中でも、未来を信じて進んでいく原動力は、困難に直面しても諦めることなく自分を信じ、自ら考え実行する力や、様々な他者の多様性の理解、自他のかけがえのない命を平等に大切にできる態度に支えられているに違いありません。

本大会は、復興の原点である「生」と「性」の指導の、より一層の充実について、2日間の日程で開催します。岩手大会の特徴として、「復興教育の推進に向けた性教育の実践」の分科会を設定しております。「岩手らしさの真心を込めた大会」にしたいと実行委員は準備に取り組んでまいりました。2日間の研究協議を通しまして、お一人お一人の課題解決の糸口になれば幸いです。

と、熱く力強く大会への意気込みを語られた。

◆ 第1日 8月7日（木曜日）

1日目の8月7日（木曜日）は、全体会の形式で、開催地報告から始められた。

◆開催地報告

「岩手の復興と性教育の推進」

～深めよう「絆」、つなげよう「いのち」～

報告者は、村上真知子盛岡市立大慈寺小学校養護教諭。

「東北の復興は少しずつ進んでいるものの、まだまだ本来の姿に戻るのには時間がかかりそうです。そういう現状の中で、『今、私たちにできることは何か』を問いながら、『できるところから、始めよう』という信念のもとに、性教育セミナーを継続して開催することで、岩手県内の仲間の絆を深めているところです」と語り、性教育セミナーの目指すものとして次の6項目をあげた。

- (1) 自他の生命尊重の大切さが分かる子どもの育成
- (2) 自己肯定感のある子どもの育成
- (3) 生き抜く力を育む子どもの育成
- (4) 郷土を愛し、他者とのつながりを大切にする子どもの育成
- (5) 「生」と「性」の教育の充実を目標とし、研鑽し合う教職員集団の資質向上
- (6) 岩手の教育推進のためにつながる教職員集団の絆づくり

この6項目を念頭に置きながら、毎年性教育セミナーを企画し、平成24年度は堀内比佐子全国性教育研究団体連絡協議会監事を講師に「最近の学校における性教育はこれでよいのか」をテーマに、平成25年度は、「岩手の復興に向け、今、性教育が果たす役割」と題したシンポジウムを開催している。

◆基調講演

学校における性に関する指導の在り方

講師の森良一文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課教科調査官は、「学校における性に関する指導の在り方」について講演した。

冒頭、「学校における性に関する指導は、児童生徒が性に関して正しく理解し、適切に行動をとれるようにすることを目的に実施されており、体育科、保健体育科、特別活動をはじめとして、学校教育活動全体を通じて指導する必要がある」と述べられた。

その上で、平成20年1月に答申された中央教育審



議会での「学校における性に関する指導」に関連する内容を紹介した。その内容は次のようなものである。(心身の成長発達についての正しい理解)

- 学校教育においては、何よりも子どもたちの心身の調和的発達を重視する必要がある、そのためには、子どもたちが心身の成長発達について正しく理解することが不可欠である。しかし、近年、性情報の氾濫など、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化している。このため、特に、子どもたちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっている。また、若年層のエイズ及び性感染症や人工妊娠中絶も問題となっている。
- このため、学校全体で共通理解を図りつつ、体育科、保健体育科などの関連する教科、特別活動等において、発達の段階を踏まえ、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識を確実に身に付けること、生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視し、相互に関連づけて指導することが重要である。

また、家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことが重要である。

この答申に沿って、「小学校においては、体の発育・発達や心身の健康などに関する知識について体育科保健領域を中心に、中学校においては、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識について保健体育科保健分野を中心に確実に身に付けることを重視するとともに、特別活動等で生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視し、これらに関連付けて指導することに留意する必要がある」と述べ、小学校学習指導要領の体育科保健領域、中学校学習指導要領の保健体育科保健分野の性に関する指導に関連する内容をわかりやすく解説しながら示された。

今回の学習指導要領の改定では、内容に大きな変更はないが、総則の「教育課程編成の一般方針」で、学校における体育・健康に関する指導に、新たに「生徒の発達の段階を考慮すること」という文言が、また、小学校の体育科、中学校の保健体育科の学習

指導要領解説に「指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切であること」、さらに、特別活動の学習指導要領解説に集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことなどの文言が加えられるなど、性に関する指導についての留意事項を具体的な事例を示しながら解説された。指導に当たっての配慮事項は、以下の4項目に整理できる。

- ①児童生徒の発達の段階を踏まえること。
- ②学校全体で共通理解を図ること。
- ③家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること。
- ④集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うこと。

最後に、「文部科学省は、小学校保健教育参考資料(『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き)をすべての小学校に6冊、中学校保健教育参考資料(『生きる力』を育む中学校保健教育の手引き)をすべての中学校に6冊配布している。それぞれに性に関する指導の事例を掲載しているので参考にしていただきたい」と、講演を締めくくられた。

◆特別講演

平民宰相 原敬の妻アサに見る生と性



基調講演の終了後、休憩をはさんで、特別講演(特別公演というほうが的確)として、大概由生子氏の一人芝居が公演された。

岩手県盛岡市生まれの平民宰相といわれた第19代内閣総理大臣原敬を陰で支えた2度目の妻であるアサを、二人の出会いから暗殺された夫の葬儀後までを演じた一人芝居である。



大慈寺にある原敬夫妻の墓

盛岡弁のぼくとつさを取り入れながら一人四役で演じられた、笑いと涙の感動的なもので、アサを通して、原敬という人間をよく理解することができた。原敬と妻アサの墓は、今研究大会の藤川ひとみ会長が校長を務める大慈寺小学校の近くにある。

この公演をもって、午後1時から始まった1日目の研究大会は終了した。

◆ 第2日 8月8日（金曜日）

2日目は、午前9時30分から12時まで、5つの分科会が開かれた。

◆第1分科会「小学校における性教育の実践」① 自他のいのちを大切に思う児童育成のために ～4学年 保健学習での取組から～

発表者の甲山郷子仙台市立蒲町小学校養護教諭は、性に関する情報や産業が氾濫し、児童虐待、ストーカー被害、わいせつ目的の連れ去りなどが報道されるなかで、養護教諭ができる指導の第一歩目である「保健学習」を大切に、その中で子どもたちに大事なことを伝える実践を行ってきたことを発表した。

4年生を対象にした保健学習で、子どもたちに伝えたいことを次の7項目にまとめている。

- ①思春期に起こる体と心の変化
- ②上記の変化には「個人差」があること
- ③自分たちの体の成長を前向きに捉えること
- ④自分たちが命を創り出し、子孫を残す能力を持っていること
- ⑤人間は命を創り出すため、異性に関心を持ち、体だけでなく心も変化すること
- ⑥自分は両親から深い愛情によって成長してきたこと

⑦自分や他者の生命を尊重しようとする気持ちや態度が大切であること

これらの指導内容をまとめるに当たって、次のような反省があったと、大会のレジメに記している。

「養護教諭である私の中にも、性について、恥ずかしいという気持ちがあったように思う。しかし、報道される悲しい事件など耳にするにつけ、命を大切にすること、人をおもいやること、自分を大切にすることなど、子どもたちに伝えたいことばかりが増えていった。性について話すとき、『先生自身が性というものをどのように捉えているかが大切だ』ということを言われたことがあった。まさにそのとおりだと感じている。性について話をする大人の言葉、その話し方・雰囲気なども子どもたちの性の捉え方に影響を与える」と。

◆第1分科会「小学校における性教育の実践」② 望ましい行動を自己決定できる子どもの育成 ～小学校・中学校で行うピア活動による性に関する 指導の実践と評価～

盛岡市立北松園小学校と北松園中学校におけるピアエデュケーションによる取組の実践報告である。発表者は、渡辺淳子北松園小学校養護教諭と谷村純子岩手町立一方井中学校養護教諭（前北松園中学校養護教諭）である。

この取組は平成21年度から始められ今年26年度で6年目になる。

平成21年度は、ピアリーダーを大学生と中学1年生とし、小学校5年生を対象にエイズに関する知識・意識・自尊感情についての調査を実施し、その後ピアエデュケーションを取り入れたエイズ教育活動を行い、ピア活動前後の変化を比較した結果、小学生、ピアリーダーともに、実施後の知識、意識、自尊感情が高くなっていったという。

ふり返りカードや感想から、小・中学生にとって受け入れやすく有効性が高い活動であることが示唆されたと報告。課題として、より一般化するために、子ども同士の実際の活動を通して人間関係が広がる手立てを考えると、ピア活動の必要性和目的を児童に十分に伝えたいと、学級の状況や実施時期を考慮したプログラムを設定する必要性を感じたという。



第1分科会の様子

平成22年度は、21年度の成果と課題を踏まえ、ピアリーダーを中学生の保健委員会メンバーとし、仲間同士の関係が広がる活動を意図して構成、実施した。

その後、平成23年度から25年度までは、22年度までのピア活動の有効性が確認できたことを受けて、北松園小学校6年生と北松園中学校保健委員会とのピア活動を続けてきている。

平成26年度は、ピアリーダー経験者へのインタビュー調査を実施し、意識の変化を検証している。その結果、ピア活動実施後は、ピアリーダー群、小学生群の自尊感情、エイズの知識、仲間を大切にしようとする意識が高くなっていることが確認できたという。このことから、ピア活動は発達段階を考慮して実施すれば有効であり、ピア活動をより効果的に展開するために、リーダー育成のあり方、養護教諭が行う支援のあり方についてさらに研究を続ける必要を感じていると報告された。

「自分を大切に思う自尊感情や仲間を大切にしようとする意識の育成については、ピア活動だけでなく様々な教育活動を通して育成されるものであり、学校教育の中で行われるそれらの活動をリンクさせながら進めていくことを今後の課題としたい」と締めくくった。

◆第2分科会「中学校における性教育の実践」① 奈良市の中学校の性に関する指導の実態と 本校の性に関する教育の取組

市原良美奈良市立若草中学校養護教諭は、奈良市の中学校における「奈良市の性に関する指導の実態」についてのアンケート調査の結果と若草中学校

における取組について報告された。

平成25年12月に行った奈良市の公立中学校22校の調査（回答率100%）では、「性教育に関するまたはこれを含む年間計画はありますか」という質問に、19校（86%）がイエスと答えているという。また、「保健体育の保健の教科学習以外で、性に関する指導を実施していますか」という質問には、18校（82%）がイエスと回答しているという結果を報告した。

若草中学校では、人権教育に力を入れており、性に関する指導では、1年生では保健教科学習と「ストレスマネジメント」、2年生で「ジェンダーに気付く」、3年生で「エイズと性感染症の予防について」と「5年後の私への手紙」を題材に、「すべての生徒の自己実現をめざし、自尊感情を高め、仲間も自分も大切にできる生徒を育てる」を目標に掲げて取り組んでいるという。

◆第2分科会「中学校における性教育の実践」② 生きる力を育む健康教育 ～健康教育に位置づけた性教育～

小山田ヨシ子岩手大学教育学部附属中学校養護教諭は、勤務校での取組を報告された。同校では、健康教育を「思春期特有の課題」と「日常生活及び将来の健康課題」という2つの具体的なテーマのもとに取り組んでいる。

前者の「思春期特有の課題」では、「心の健康：心身の健康（ストレスマネジメント）」と「生と性に関する指導：命と生き方についての学び」、後者の「日常生活及び将来の健康課題」では、「保健学習・保健指導：正しい知識と望ましい判断」と「ネットに関わるモラル教育：正しい知識と活用法」を指導している。

◆第3分科会「高校生における性教育の実践」① ピアカウンセリングによる性教育 ～かけがえのない自分の人生を守るために～

三上裕理青森県立大湊高等学校養護教諭の報告は、同校で実践したピアカウンセリング教室の実施に関するものであった。

同校では、性教育の目標として次の2点をあげている。

- ①自分の人生をかえがえのないものだとして認識させるとともに、妊娠・避妊について正しい知識を習得させる。
- ②一人ひとりいろいろな考えがあることを再認識し、自他を尊重する態度を育成する。

この目標の実現を目指し、1年生全員を対象に、「あなたも私も宝物～大切にしよう みんなの気持ち～」をテーマに120分のピアカウンセリング教室を実施している。

講師は、青森県立保健大学ピアカウンセリングサークル「SMILE」の所属学生。

この教室の実施をきっかけに「将来」「命の大切」などの言葉を養護教諭として生徒に投げかけやすくなり、日常生活の中での働きかけを充実させることができるようになったと成果を報告された。

◆第3分科会「高校生における性教育の実践」② 「平成25年度 高校生の生と性に関する調査」 について



第3分科会の様子

佐藤卓いわて思春期研究会副会長・岩手県環境保健研究センター地球科学部長は、岩手県内の全日制高等学校78校を対象に行った調査結果を報告した。

参加学校71校、調査対象者数9055名中、有効回答者数は8769名（回収率96.8%）で、平成13・14年度に実施した前回調査とほぼ同率であったという。

5項目の分析結果が報告された。ここでは、その概要を紹介する。

①悩み・会話・自尊感情

男子の51.4%、女子の68.0%が「不安や悩みがある」と回答、前回調査との比較では10ポイント以

上減少。内容では「自分の将来」「学校の成績」の割合が高かった。

②性・男女交際意識

性について「知りたいことがない」という回答が、男子51.6%、女子51.0%で、「第7回青少年の性行動全国調査」とほぼ同率。男女交際を望んでいる生徒は、男子が57.0%、女子が47.7%で、前回調査と比較すると男子がやや減少、女子は大幅に減少している。理由では、「面倒くさいから」が最も多かった。

③性行動

付き合っている人がいる生徒は、男子23.6%、女子27.1%で前回調査とほとんど変わりはないが、「付き合っている人はいないがほしいと思わない」は男子36.8%、女子43.1%で前回調査より大幅に増加。セックスの経験のある生徒は、男子12.5%、女子15.1%で前回調査より10ポイント以上減少。

④セクシュアリティ

今回初めての調査項目で、全体の10%がセクシュアルマイノリティである可能性が示唆された。

⑤ネット利用

男子93.1%、女子95.2%が授業以外でネットを利用しており、利用機器はスマホが最も多い。ネット依存のおそれのある生徒は、男子1.9%、女子2.7%で、厚生労働省の平成24年の全国調査の9%より低率で、ネットトラブル経験者は全体の17.4%であった。

このように報告し、「前回調査から10年以上を経て、高校生の生活で大きく変化した環境は、スマホ普及によるネット利用と考えられる。ネット利用は主要な情報源として、また、コミュニケーションツールとして現在の高校生にはなくてはならないものになっていますが、ネット依存やトラブル等のリスクを抱えており、適正な利用が望まれます。また、セクシュアルマイノリティの可能性のある生徒の性自認や性指向の否定は、当人の心の成長に大きな悪影響を及ぼすことが考えられ、今後、学校教育において配慮が必要な課題といえる」とまとめられた。

◆第4分科会「特別支援学級・学校における性教育の実践」

第4分科会では、「特別支援学級における性の指導の実践～自己肯定感・読書教育・復興教育～」を

テーマに、吉川美奈子宮古市立山口小学校養護教諭が、知的障がい学級と情緒学級の実践について発表した。続いて、「生き方としての性教育～三愛学舎の実践～」をテーマに、早坂伸子三愛学舎主幹教諭が知的障がいをもつ生徒を対象にする私立の特別支援学校の実践を発表した。

いずれの実践も、特別支援学級、特別支援学校の性教育のご苦労と難しさを感じ取れるものであった。その教育に対する熱意に拍手を送りたい。

◆第5分科会「復興教育の推進に向けた性指導の実践」



第5分科会大槌中学校の生徒の発表の様子

岩泉町立小本小学校の則竹文仁教諭と大槌町立大槌中学校の盛合晃敬教諭は、ともに東日本大震災で甚大な被害を受けた勤務校での実践を報告された。

小本小学校は児童数62名の小規模校で、津波で校舎が浸水し使用できなくなり、高台にある仮設校舎で教育活動を行っている。

大槌中学校は、震災後、学校の再開は、町内にある吉里吉里中学校に1・2年生が、県立大槌高等学校に3年生がそれぞれ教室を借りしてスタートしている。2013年9月からは仮設校舎で全校の生徒がそろって活動している。

則竹教諭は、「いわての復興教育の実践を通じた、児童の生きる力の育成にあたって～震災を乗り越え生きる子どもたちに、今、実感させたい生への希望と自覚～」というテーマで報告された。盛合教諭は、「心のケアを中心とした復興教育」というテーマで、スクールカウンセラーとの連携のもとに行った「生徒の心のケア」、「保護者の心のケア」の実践の成果を発表した。

◆課題別講義

昼食休憩をはさんで、午後1時30分から5つの課題別講義が行われた。

課題別講義Ⅰは、林英雄北海道性教育研究会会長・札幌市立柏中学校長が講師の「これからの学校教育における性に関する指導の在り方」、課題別講義Ⅱは、秋元義弘岩手県立二戸病院産婦人科長を講師に迎え、「思春期外来から見た青少年の性に関する課題」をテーマに、課題別講義Ⅲは仁木雪子八戸学院短期大学看護学科教授が、「生と性を考えることを基盤とした性教育の取り組み」をテーマに、課題別講義Ⅳは、三浦康男全国性教育研究団体連絡協議会副理事長が「性教育における関係機関との連携」をテーマに、課題別講義Ⅴは、向川原学岩手県警察本部生活安全課少年企画補佐兼少年サポートセンター所長が「性とメディアリテラシー」をテーマにした講義を行った。

◆実践発表

課題別講義終了後、午後3時10分より、メイン会場であるアイーナホールで、大会を締めくくる2つの実践発表があった。

大会2日目の参加者が一堂に参集して、今井一紀札幌市立厚別小学校教諭の「自己肯定感を高め、人間関係力を育む性教育を目指して～命を大切にする授業実践から～」と桐川勲東京都府中市立府中第二中学校長の「『2014年度 東京都児童・生徒の性』実態調査の結果と考察」(内容については13ページ参照)と題した実践発表があった。



実践発表の様子

午後4時、予定通り充実した2日間の性教育研究大会は盛会のうちに終了した。次回第45回全国性教育研究大会は、平成27年8月3日・4日の2日間、熊本市で開催される予定である。

「もっと知りたい」というこの連載のタイトルを改めて読み、「もっと知りたい」、あるいは「もっと知ってほしい」と思っているのは「相手の性」なのか「自分の性」なのかを考えてしまいました。岩室紳也の役割は「男子の性」を書くことかなと思っていたところ、早乙女先生の「生殖時計—卵子マネージメント」を読ませていただき、「相手の性」とどう向き合うか、向き合うためにどのような取り組みが必要なのかも考えてみました。

* *

自分事にならないと人は意識できない

昨今、「女性の妊娠可能年齢」という話をよく耳にします。これは女性だけの問題ではないはずですが、不妊という事態に直面する前に男子に意識してもらうにはどのようなアプローチが必要なのでしょう。

HIVに感染している私の患者さんたちは全員「感染予防に検査とコンドーム」ということを知っていましたが、なぜか自分事にはならなかったようです。それもそのはずです。日常生活の中で知人が、家族が感染したといった経験があれば自分事にはなり、予防行動につながっていたかもしれませんが、そのような経験はHIV/AIDSがある程度広がった今でもあまりないことです。ではどうすれば男子が卵子を、女性の妊娠可能年齢を自分事のように考えられるようになるのでしょうか。

* *

男は女を、女は男を語れないのか

よく「女だから男について語れない」という人がいます。もちろん逆もありますが、本当にそうでしょうか。確かに自分自身が経験したことは語る材料にしやすいですし、泌尿器科医であれば数多く診ている男性の性について、産婦人科医であれば女性の性についての経験は豊富に持っているでしょう。しかし、それはあくまでも医学的な知識と医者患者関係の中で蓄積された経験に基づくものです。しかし、専門家ではなく

でも、一人ひとりがパートナーとの関係性の中で経験してきたことを通して、自分と異なる性について語ることは決して難しくもなく、むしろ伝える力になっている場合が少なくありません。

* *

月経と付き合う男子紹介

講演の際、次のような質問を学校の先生たちに向けます。「私（岩室紳也）は結婚した時から自分の奥さんの月経周期をチェックしてきました。さて何のためでしょうか」と。ほとんどの先生は「避妊のため、安全日、危険日を確認するため」と答えます。答えは「No」です。「いま生徒さんたちが使っている高校の教科書には『月経の周期から妊娠しない日を選んで性交する方法も、月経周期は変動しやすいため、避妊効果は低いといえる』と書かれているのをご存じないのですか。もう一回高校生をやってくださいね」と生徒の前で先生たちも意外と教科書に書かれていることを知らない、読んでいないことを感じてもらいます。

* *

月経の際に女子が避けたいこと

月経の最中に女性が避けたいことは何でしょうか。旅行、運動、プール、外出はいやですね。楽しみにしていた旅行に月経がぶつかれば残念な思いになる女性も少なくないことでしょう。そうなのです。岩室紳也はパートナーとの外出や旅行に月経がぶつからないよう月経周期をチェックしています。

この話をすることで、聞き手の若者たちは「そのような配慮をする関係性もあるんだ」ということを知るとともに、「安全日、危険日はないのか」という疑問を抱きます。月経チェックの話の狙いはここにもあります。

* *

排卵日を正しく知ろう

私は「月経は卵子と精子が出会わなかった結果」と伝えていきます。小学校3・4年生向けの保健の教科書にきれいな写真で紹介されている卵子と精子が合体し

てできる受精卵を育てるため、女性の下腹部にある子宮というこぶし大の袋の中にふわふわのベッドが敷き詰められます。しかし、卵子と精子が会わず、赤ちゃんができなければ用意したベッドはいらなくなり、卵子が飛び出してから約2週間経ったところでベッドが体の外に出されてしまいます。これが月経です。

* *

卵子と精子は短命

でも、ちょっと考えられる若者たちは「じゃあ、28日間隔で月経が来ればそこから排卵日が計算でき、卵子は24時間しか生きていないし、精子も2~3日なら、ちょうど月経と月経の間の14日目が排卵日で、そこを狙えば『危険日』、その前後数日間を外せば『安全日』といえるのではないか」という疑問を抱きます。

安全日は男子にとって相手が妊娠しない、コンドームを使わなくてもいい（とはもちろん伝えませんが）ありがたいことです。安全日を話題にすることで男子の意識が少し自分の精子に、そして相手の卵子に近づけます。

* *

男子に卵子の寿命を意識させるには

コンドームを使わない男たちが後を絶たないのを見てわかるように、女性の妊娠を男子が自分事として考えることは実は大変難しいことです。ましてや「女性の妊娠可能年齢」について意識している男子は少なく、どう伝えるかが問われています。

こう書くと「何で！！！！！」と怒っている女性の読者が目に浮かびますが、男子は絶対に妊娠しないのです。女性の皆様も男子の性の諸問題はどことなく「自分にはない、経験がないから」と他人事ではないでしょうか。経験できないことが自分事になるには、疑似的体験のようなプロセスが不可欠です。だからこそ岩室は「安全日」、「危険日」を自分事として受け止めることから、「精子」や「卵子」について考え、その延長線上で、「精子」と違って「卵子」には寿命があることを伝えるようにしています。

* *

生理の時にエッチをして妊娠しますか？

このようなメール相談があったら皆さんはどのように返しますか。私は相談時に心がけているのが、答え

を伝えるだけではなく、どうしてそのように考えるようになったかを本人に振り返ってもらうことです。

高校2年生の彼女は同級生の彼氏と時々エッチをしていましたが、二人は妊娠だけはしたくないと毎回コンドームを正しく使っていました。しかし、ある日コンドームが手元にありませんでした。そこでやめておけばよかったのですが、彼女はその朝、軽く出血があり「生理の始まり？生理なら大丈夫じゃない？」とコンドームなしのセックスをして妊娠しました。月経周期を把握していなかった彼女は排卵期の出血（中間期出血）を生理の始まりと勘違いしたようです。

* *

精子は強い

卵子には適齢期がありますが、精子は非常に強い存在でその男性が天寿を全うするまで相手を妊娠させる可能性があります。1回の射精で出される精子の数は数千万個ですが、その中で妊娠に至るのは何とたった1（~数）個です。このような競争社会があるからこそ、妊娠に至った精子は超エリートということになります。しかも70歳を超えて女性を妊娠させたという芸能人の話を聞くと、「男性の妊娠させることの可能年齢」が問題視されない理由がわかります。

* *

男子が自分の精子を意識する時

妊娠を希望するカップルの約1割が不妊という現実直面し、そのうち約半数が男性側の因子だということもわかっています。しかし、精子がない無精子症であっても前立腺液や精囊腺液が出ていれば、自分の精液を顕微鏡などでのぞかない限り、精液の中に精子がないことに気づきません。

ただ、おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）に感染した場合、約20%が精巣炎（睾丸炎）を起こし、なかには精子が少なくなったり、精子が見つからない無精子症となったりする場合があります。先日も中学生の時に精巣炎になったことを心配し、精液検査を希望してきた男子がいました。おたふくかぜを撲滅できない以上、このようにして自分の精子を意識する男子がこれからも続くことでしょう。でも、トラブルに巻き込まれる前に精子を、そして卵子を意識できる男子づくりを心掛けたいものです。

性教育の歴史を尋ねる

戦後・純潔教育編

茂木輝順

第18回 文部省純潔教育委員会企画「純潔教育シリーズ」

もてぎ てるのり
女子栄養大学大学院栄養学
研究科保健学専攻博士後期
課程修了、博士（保健学）

前回と前々回で述べたように、1949年6月の文部省の機構改革により、純潔教育委員会は社会教育審議会の分科会である純潔教育分科審議会と改称されます。そして、純潔教育分科審議会の最初の会合は同年の9月16日に開催されたとみられます⁽¹⁾。同じく9月には、「文部省純潔教育委員会企画」の「純潔教育シリーズ2」として、久布白落実『純潔教育はなぜ必要か』（社会教育連合会編・印刷庁発行）が発刊されています。

本連載の第8回で述べたとおり、1948年6月18日の安藤画一とCIEのNelsonとの会見では、ガントレット恒子、村岡花子、そして安藤が性教育の小冊子を執筆していると報告されています。純潔教育委員会が一般の人々を啓蒙するための小冊子を執筆するという作業が具体化されていく中で、「純潔教育シリーズ」という企画名が付けられたと考えられます。1949年6月に発行されていた『純潔教育基本要項 附・性教育のあり方』は、事後的に「純潔教育シリーズ」の1に位置づけられたようです。

「純潔教育シリーズ2」の『純潔教育はなぜ必要か』を執筆した久布白落実（1882-1972）は、日本基督教婦人矯風会で廃娼運動や女性解放運動に取り組み、純潔教育委員会の委員の一人です（ただし、純潔教育分科審議会の委員には就任していません）。また、久布白は1946年の衆議院選、1947年と1950年の参議院選に立候補（いずれも落選）しており、選挙活動の傍ら、純潔教育委員会の活動や本書の執筆を行ったとみられます。

本書の内容については、嶺山敦子「戦後における久布白落実の性教育論」『人間福祉研究』4巻1号2011年などで解説されているので、今回は私が気になった以下の点を述べたいと思います。

本書は、以下のような章構成です。〈はしがき／純潔教育の目標／純潔教育の方針／純潔教育の場所／純潔教育の方法／純潔教育の諸問題（1男女交際と共学 2恋愛と結婚 3娯楽と趣味 4飲酒と喫煙 5性病の問題）／むすびのことば〉。本書の内容は別にしても、この章構成は、『純潔教育基本要項』の構成（本連

載第10回参照）とかなり似ています。ここから、本書が『純潔教育基本要項』の解説もしくは補足という目的で執筆された可能性も感じられるのですが…。もう一点、気になるのは本書の「はしがき」に「昭和二十三年三月二十九日」と発刊の1年以上前の日付が記載されている点です。単純なミスなのかもしれませんが、正しいのなら、純潔教育委員会が『純潔教育基本要項』を検討している最中に（全部でないにしても）執筆されていたこととなります。とすれば、逆に、本書（もしくは久布白）が『純潔教育基本要項』の構成に何らかの影響を与えていた可能性も考えられるのですが…。資料不足で判別できません。

また、本書の奥付のページに掲載されている近刊の予告によると、「純潔教育シリーズ」の3以降は、下記のように7まで計画されていたことがわかります。

3…山室民子編『アメリカの性教育』、4…山本杉『家庭における性教育』、5…ガントレット恒子『男女の交際と礼儀』、6…村岡花子『恋愛と結婚について』、7…大平エツ『不良青少年の問題』。ところが、刊行はこの予定どおりには進みませんでした。実際に刊行された「純潔教育シリーズ」は、下記の5つです。

1…純潔教育委員会『純潔教育基本要項』附・安藤画一『性教育のあり方』（1949年6月）定価25円、2…久布白落実『純潔教育はなぜ必要か』（1949年9月）定価30円、3…文部省純潔教育分科審議会（山室民子・村岡花子・定方亀代訳、アメリカ医学協会・アメリカ社会衛生協会原本刊行）『性知識のあたえかた』（1950年2月）定価35円、4…文部省純潔教育分科審議会『男女の交際と礼儀 付・正しい洋式食事と服装 「男女の交際と礼儀」を活用するために』（1950年12月）定価70円⁽²⁾、5…望月衛『青年期の性の心理』（1951年5月）定価80円。

【注】

(1) ただし、『婦人新報』No.594（1949年10月1日）p.8の「本部日誌」には、「九月十六日（金）」文部省純潔教育委員会に岸登会頭千本木理事出席」と記載されています。

(2) ただし、『男女の交際と礼儀』の初出は1950年11月に発刊の非売品版であるとみられます。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

多様な当事者たち

ヒトは感情的な生きモノである。本書は、ヒトは、感情で判断しやすいことを改めて確認させてくれる。

生殖医療のサポートを受けて「子どもが欲しい」という希望をかなえようとする夫婦が増えている。卵子が老化することから、若いうちに卵子を凍結保存し「婚前卵活」するシングル女性もいる。体外受精児の出生率も増え続けている。受精卵の染色体異常を調べて、健康に育つ胚だけを選ぶことも可能になった。

我々の予想をはるかに超えるスピードで進んでいく生殖医療をどのように捉えるのか。

「生殖医療が『科学の濫用』と言われたり、そのニーズと無関係な人たちから冷ややかに見なされやすかったりする理由の一つは、それが生殖の障害となっている患部そのもの（卵管や造精機能、子宮）を治す『根治治療』ではないからです。体外受精もDIも代理母出産も、この意味での『医学的治療』ではありません。それは、患部そのものは治せないけれど、別の方法で、『子どもができない』という苦悩から本人たちを救い出す（あるいは、希望を叶える）『救済治療』なのです」と、まず生殖医療という行為を「根治治療」と「救済治療」という概念から考えていく。

人工授精（DI）を利用したシングルマザーの存在を考察する。ここでは、単にシングルマザーという母親だけでなく、「ドナーきょうだい」といったDI児のアイデンティティにも踏み込んでいる。DI児には、戸籍上の父親と遺伝上の父親の問題も存在する。同性婚で生まれたDI児も存在する。そして、遺伝子解析技術と着床前診断が生み出すであろう諸問題。

著者は、「『家族とは、父親がいて母親がいて、子どもがいるもの』という伝統的な家族観を維持（あるいは強化）するために進展してきた生殖補助医療



生殖医療はヒトを 幸せにするのか

生命倫理から考える

小林亜津子 著

光文社新書

定価 760 円+税

（ART）が、従来の『家族』のあり方をくつがえすような、多様な性によるバラエティに富んだ『家族』の誕生を実現するようになったのです」と記す。

生殖医療が、予想していなかった様々な状況を創り出していることを示し、多様な立場が存在し、多様な見方、見られ方があることを教えてくれる。一面だけで判断すると、判断を誤ることを教えてくれる。

序章で、「私の専門は哲学で、現在は大学で倫理学を教えています。『教える』というよりも、学生さんたちと『一緒に考えていく』と言った方が正しいかもしれません。『倫理学』には、明快な『正解』というものがありません。『何が正しいのか』『何がよいことなのか』『どのような生を選択すべきなのか』についての判断は、時代や地域によっても、大きくことなってきます。『生命』に関する倫理的判断を迫られる場合でも、それは同じです。そして、生命科学の絶えざる進歩によって、『前例のない事態』が生じ、新たな倫理問題がつぎつぎと投げかけられているのです」と述べ、あとがきで、「本書でお伝えしたかったのは、生殖医療の目新しさだけではなく、つぎつぎと繰り返される生殖技術の進展に、法律や倫理が追いついていけなくなっている状況下で、それを利用することをあえて選択した（選択せざるをえなかった）人たちの心情や、『技術』によって念願の『わが子』を腕に抱くことのできた人たちの喜びや、そのことによって予想もしていなかった倫理的ジレンマの渦中に投げ出された人たちの苦悩に光をあてることによって、当事者（生殖医療にかかわる人たち）と非当事者（それを傍から冷静に、あるいは批判的に見ている人たち）との認識の隔たりに“橋”を架けたかったのです」と記す。

読みすすむにつれ、なぜか是非この本を読んでもらいたいという人が頭に浮かんだ。性教育バッシングを続けている新しい国務大臣に、である。

（教育ジャーナリスト 日向野一生）

10月11日(土) 13:00～17:00

日本性科学連合 (JFS) 第15回性科学セミナー

「技術の進歩は私たちの性をどう変えたか」

内容 **講演** 「技術の進歩は私たちの性をこう変えた」
北村邦夫 (一般社団法人日本家族計画協会)、「若者の性
調査にみる青少年の性行動の分極化：女子の自慰に着目
して」守如子 (関西大学社会学部)、「LINE、メールで繋がる、
恋愛、デートDV」上村茂仁 (ウイメンズクリニック上村)、「性
感染症アウトブレイクの発見と対応における技術の進歩」
中瀬克己 (岡山大学医療教育統合開発センター GIM センター) ほか。

会場 岡山大学医学部鹿田キャンパス
(岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1)

主催・問い合わせ等

参加費 / 3000 円 (学生 1000 円)
主 催 / 日本性科学連合
後 援 / 日本性教育協会、(一社) 日本家族計画協会、日本性科学会、
日本思春期学会、日本性機能学会、(一社) 日本性感染症
学会、(公財) 性の健康医学財団
問合せ先 / 日本性科学連合 (JFS) 事務局 TEL080-1242-5025
E-mail : info@jfs1996.jp http://www.jfs1996.jp

10月12日(日) 9:00～

第34回日本性科学学会 (JSSS) 学術集会 ～メインテーマ「生殖と性」～

内容 **会長講演** 「生殖と性：社会を知り社会に発信す
る」中塚幹也 (岡山大学ジェンダークリニック)

シンポジウム I 「各種の疾患と性」各種疾患の診断、治
療に伴い変化する「性機能」と「性への気持ち」(性同一性
障害と性、子宮けい痛と性、乳がんと性)

シンポジウム II 「性教育でジェンダー、セクシュアリティ、
生殖を取り上げる」学校でジェンダー、セクシュア
リティ、生殖の基礎知識を教えることはできる？
ほか。

会場 岡山大学医学部鹿田キャンパス
(岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1)

主催・問い合わせ等

参加費 / 5,000 円 (学生 1,000 円)
主 催 / 日本性科学会
問合せ先 / 岡山大学大学院保健学研究科中塚研究室
TEL & FAX 086-235-6538
E-mail : 34thjssss@gmail.com
URL http://34th-jssss.kenkyuukai.jp/

第24回関東甲信越静性教育研究大会 (長野大会)

基本テーマ「性教育によって育まれる未来とは」

～子どもたちの健やかな成長と輝かしい未来のためにできること～

【期 日】 2014 年 11 月 1 日 (土) 10:00～16:00 (受付開始 9:30)

【場 所】 TOiGO 長野市生涯学習センター (長野市鶴賀問御所町 1200)

【主 催】 長野県性教育研究会、全国性感教育研究団体連絡協議会、関東甲信越静性教育研究団体連絡協議会

【内 容】

- (1) 市民公開講座「お父さん出番ですよ。子どもに性をどう語るか、子どもはそれをどう受け止めたか？」
①体験発表「私とピア」朝岡徹、②講演「産婦人科医師として、父親としての性教育」北村邦夫 (一般社団法人日本家族
計画協会理事長、家族計画研究センター所長) ③「親子トークライブ」北村邦夫・北村智 (こてつ 吉本興業所属)
- (2) 課題別研究協議：第1分科会「せっかくだから聞いて話してみませんか?」、第2分科会「性犯罪の加害者への教育、メ
ンタルの背景。加害者を変えていけるのか」、第3分科会「ネットの中のコミュニティとその裏側を知る」、第4分科会
「思春期ピアカウンセラー交流会」

【参加対象者】 幼・保・小・中・高・特別支援学校・専門学校・大学の教職員および学生、保護者・カウンセラー、医療・保健・福祉・
司法関係者、弁護士・保護司・思春期ピアカウンセラー・性教育に関心のある方。

【定員・参加費】 300 名 (うち公開講座のみの参加 100 名) 資料代 2,000 円 (学生は 1,000 円) 公開講座のみ 500 円

【申し込み方法】 郵便振り込み。締め切り：9月20日(土)

【問い合わせ】 <大会事務局> 北信保健福祉事務所 健康づくり支援課 松本清美
電話 0269-62-6104 FAX 0269-62-6036 E-mail:hokuho-kenko@pref.nagano.lg.jp

2014年度 児童・生徒の性に関する調査報告

東京都の小学生 1050 名、中学生 2640 名、高校生 3192 名、合計 6882 名の調査結果！

児童・生徒の生理的・心理的な発達の状態や性的な行動の実態を明らかにして、学校における性教育の重要性に対する理解を深めるとともに、性に関する指導の適時性や指導内容の適正化を図るために。

【内容】 過去との調査比較

- 〈解説・データ編〉 ◆小学校、結果と考察 / 調査データ
- ◆中学校、結果と考察 / 調査データ
- ◆高等学校、結果と考察 / 調査データ

【購入方法】

下記、郵便振替口座に、住所・氏名を記入の上、お申し込みください。

口座番号 00180-3-729426
 加入者名 東京都幼・小・中・高・心性教育研究会
 頒 価 1,200 円 (送料込)

【問い合わせ先】

東京都幼・小・中・高・心性教育研究会
 会長 井口 一成
 E-mail m-iguchi@sea.plala.or.jp



「若者の性」白書

好評
発売中!!

第7回 青少年の性行動全国調査報告

2011年度第7回「青少年の性行動全国調査」として行われた「若者の性意識・性行動」に関するレポート。

◆主な内容◆

- 序章 第7回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 青少年の性行動の低年齢化・分極化と性に対する新たな態度
- 第2章 欲望の時代からリスクの時代へ
—性の自己決定をめぐるパラドクス—
- 第3章 青少年の家庭環境と性行動
—家族危機は青少年の性行動を促進するのか—
- 第4章 消極化する高校生・大学生の性行動と結婚意識
- 第5章 青少年にみるカップル関係のイニシアチブと規範意識
- 第6章 高校生・大学生の避妊に関する意識と行動
—避妊行動の分化に着目して—
- 第7章 現代日本の若者の性的被害と恋人からの暴力
- 第8章 自慰経験による女子学生の分化
- 第9章 性情報源として学校の果たす役割
—性知識の伝達という観点から—
- 付表Ⅰ 「青少年の性に関する調査」調査票
- 付表Ⅱ 基礎集計表 (学校種別・男女別)



編 / 財団法人日本児童教育振興財団内
 日本性教育協会
 発行 / 小学館

本体2,200円+税 ● A5判256ページ
全国の書店にてご購入できます!